

花木類の花成に関する研究 ツバキの花芽分化期について

川田 計・後藤利幸

(大分県温泉熱利用農業研究所)

KAWATA, K., GOTO, T.

Studies on the Flower Forming for Ornamental Trees.

On the period of flower bud differentiation for *Camellia Japonica* L.

ツバキの花器発育経過および花芽分化期を明らかにして栽培に役だてようとした。

材料および方法 当所植物園に栽植の成木94品種の中からヤブツバキほか開花の早晚別に9品種を選び、昭和42年には6月下旬から9月下旬まで4回、43年には予備を含め6月上旬から7月中旬まで8回にわたって、比較的発達した頂芽を1品種5個体ずつ採取し、70%アルコールに浸漬保存し、剥皮鏡検した。花芽分化は生長点部の表面が平坦状を呈したときを決定的標徴とした。

結果および考察 42年には花芽発育の全段階について追跡したが妙蓮寺、白大神楽、照日、ヤブツバキ、明月など大半の品種は6月下旬までに花芽を分化し、太田白、明石瀉、衆芳唐子、染川、乙女などが花芽分化期の前後に達していた。7月下旬には大半の品種は雄蕊の形成を終り、胚珠を形成するものも認められたが8月下旬には花粉の形成がみられた。しかし乙女や染川のように完全に八重化した品種では雄蕊が発育の段階で完全に弁化するようであった。

43年には花芽の分化期を中心に調査をすすめたが、その結果は表のとおりで、予備調査の6月上旬に、すでに照日で分化期に達した個体が現われたが妙蓮寺、照日は6月中旬、白大神楽、ヤブツバキ、乙女、太田白、明石瀉、明月は6月下旬、染川は7月上旬、衆芳唐子は7月中旬、それぞれ分化期を経過した。

この結果を開花の早晚別にみると10、11月咲の品種は6月中～6月下旬に、1、2月咲の品種は6月下旬～7月上旬に、3月咲の品種では7月上～7月中旬に花芽を分化し、早咲品種ほど分化期が早かった。

花芽分化期における花芽の大きさは品種間に微少の差はあったが、おおよそ芽の長さ0.5～0.6cm、芽の最大径0.35～0.40cm程度であって、ほぼ花器を完成

した8月下旬には芽の長さ1.0～1.1cm、芽の最大径0.60cm程度に発達していた。

第1表 花器発育の概況—43—

品 種	調 査 月 日	分化初期		分化期		花弁形成		雄蕊形成	
		V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII
妙 蓮 寺	6.4	1	4						
	6.11		2	3					
	6.21			2	2	1			
	6.26					2			3
白大神楽	6.4	2	3						
	6.11	1	3	1					
	6.21	1	1	3					
	6.26					3	1		
照 日	6.4		4	1					
	6.11		1	2	1				
	6.21		1	1	1	2			
	6.26				3	2			
ヤブツバキ	6.11		4	1					
	6.21		1	4					
	6.26				4	1			
	7.3						4		
太 田 白	6.21	1	3	1					
	6.26			4	1				
	7.3			2	3				
	7.10				3	1	1		
乙 女	6.11		4	1					
	6.21		1	1	3				
	6.26				2	3			
	7.3				1	4			
明 石 瀉	6.21	1	4						
	6.26		3	2					
	7.3		1	1	3				
	7.10				2	1	1		
明 月	6.21	1	3	1					
	6.26			4	1				
	7.3			1	3	1			
	7.10				1	4			
衆 芳 唐 子	7.3	1	3	1					
	7.10			5					
	7.15			1	3	1			
	7.20					2	3		
染 川	6.26		3	2					
	7.3			4	1				
	7.10			3	2				
	7.15			1	1			3	